

職場における地域と連携した保育支援—職場内ファミリーサポートの取り組み—		
ガイドラインステップ	キーワード (6つ以内)	・保育支援 ・地域連携 ・ファミリーサポート ・病院 ・医療従事者 ・女性
1, 2, 3, 4		
改善・取組みの背景と課題	<p>本取り組みを行った東京女子医大では、女性医師や医療従事者の勤務継続と復帰支援のための様々な組織体制が構築され、育児支援としては、病院附属保育所において、行政サービスの行き届かない保育(待機児を対象とした昼間保育、延長保育、夜間保育、休日保育および病児保育など)を行ってきました。しかし施設型の支援体制のみでは受け入れ可能な人数や支援内容が限定され、様々な状況に応じて就労する医療従事者の支援としては充分とはいえませんでした。</p> <p>そこで、医療従事者の勤務環境のさらなる改善のために、学内ファミリーサポートシステムを構築し、地域の方を中心とするファミリーサポーター(提供会員)を募集し、学内医療従事者(依頼会員)の子どもの保育園への送迎やその前後のお預かり、急病時や学童の放課後のお預かり、あるいは家事や介護など細やかな支援をしていただくことにより、勤務を中断しなくて済む体制を整えることとしました。</p>	
改善・取組みの着眼点	<p>行政で既に整備が進んでいるファミリーサポートセンターに着眼し、その組織を職場内で構築しようと考えました。ファミリーサポートセンターは働く人々の仕事と子育てまたは介護の両立を支援する目的から、労働省(当時)が構想し、設立が始まりました。地域において育児や介護の援助を受けたい人(依頼会員)と行いたい人(提供会員)が会員となり、育児や介護について助け合う会員組織です。平成26年度は「保育緊急確保事業」として市町村が設立運営を行っています。</p> <p>職員の中には地域のファミリーサポートセンターの利用を希望しているものがありました。地域のファミリーサポートセンターでは依頼会員の数に対して提供会員の数が極端に少なく、十分な支援を受けられない状況にありました。そこで職場内にファミリーサポートを立ち上げ、育児支援を担う提供会員を育成し、職員の勤務環境を改善すると同時に、大学と地域の連携、大学の社会貢献として、地域の育児力の向上を目的としました。</p>	
改善・取組みの概要	<p>NPO 団体に業務委託し、学内に専属の常勤コーディネーターを配置していただいて運営しています。運営にあたっては「女子医大ファミリーサポート会則」を作成した他、事業が効率的かつ円滑に進むように運営委員会を設置しています。業務は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 会員の募集、登録その他の会員組織業務</li> <li>(2) 相互援助活動の調整等</li> <li>(3) 会員に対して相互援助活動に必要な知識を付与するために行う講習会の開催</li> <li>(4) 会員の交流を深め、情報交換の場を提供するための交流会の開催</li> <li>(5) 室員らが定期的な情報交換を行うための調整会議の開催</li> <li>(6) 関係機関等による情報交換、連携を図るためのネットワーク会議の開催</li> <li>(7) 定期的な広報誌を発行する等広報業務</li> <li>(8) 他機関との連携業務</li> </ol> <p>次ページは事業の概要図と内容です。</p>	

<p>写真・図表・イラスト</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>●援助できる活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)一時預かり保育</li> <li>2)病児・病後児保育</li> <li>3)お泊り保育</li> </ol> </div> <div style="width: 30%;"> <p>●女子医大ファミリーサポート室(本部)</p> <p>コーディネーターが常駐しています。 開室9:00~17:00(平日)</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>●登録には…</p> <p>登録には一切費用はかかりません。また会費もありません。所定の会員登録書に記入捺印の上、提出してください。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>●依頼会員とは…</p> <p>東京女子医科大学に在籍し、子育て支援を必要としている方。育児休暇中でも利用できます。男女問いませんので、どなたでも登録できます。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>●援助活動中に…</p> <p>方が一の事故・傷害に備えて、保険に加入します。保険料は女子医大ファミリーサポート室が全額負担します。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>●提供会員とは…</p> <p>子育て支援をしたい地域の方、本学関係者など一般の方で、保育サービス講習会を受講し、財)女性労働協会発行の修了証を授与された方がサービスを提供します。</p> </div> </div>																																																				
<p>効果</p>	<p>事業を開始した 2011 年度から 2013 年度までの支援実施件数は右図の通りです。黄が 2011 年度、青が 2012 年度、赤が 2013 年度です。年々支援数が増加していることから、本事業を導入した効果があると考えています。また、提供会員である地域の方からも、医療従事者の実情や現在の子育てについて理解が深まったなどのご意見をいただいています。</p> <div style="text-align: right;"> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: 0;"> <caption>支援実施件数 (件)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2011年度 (黄)</th> <th>2012年度 (青)</th> <th>2013年度 (赤)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>6</td><td>111</td><td>179</td></tr> <tr><td>5月</td><td>13</td><td>106</td><td>181</td></tr> <tr><td>6月</td><td>8</td><td>109</td><td>178</td></tr> <tr><td>7月</td><td>26</td><td>148</td><td>179</td></tr> <tr><td>8月</td><td>25</td><td>126</td><td>179</td></tr> <tr><td>9月</td><td>38</td><td>122</td><td>167</td></tr> <tr><td>10月</td><td>47</td><td>175</td><td>209</td></tr> <tr><td>11月</td><td>36</td><td>182</td><td>217</td></tr> <tr><td>12月</td><td>51</td><td>150</td><td>213</td></tr> <tr><td>1月</td><td>45</td><td>163</td><td>213</td></tr> <tr><td>2月</td><td>67</td><td>157</td><td>195</td></tr> <tr><td>3月</td><td></td><td>173</td><td>218</td></tr> </tbody> </table> </div>	月	2011年度 (黄)	2012年度 (青)	2013年度 (赤)	4月	6	111	179	5月	13	106	181	6月	8	109	178	7月	26	148	179	8月	25	126	179	9月	38	122	167	10月	47	175	209	11月	36	182	217	12月	51	150	213	1月	45	163	213	2月	67	157	195	3月		173	218
月	2011年度 (黄)	2012年度 (青)	2013年度 (赤)																																																		
4月	6	111	179																																																		
5月	13	106	181																																																		
6月	8	109	178																																																		
7月	26	148	179																																																		
8月	25	126	179																																																		
9月	38	122	167																																																		
10月	47	175	209																																																		
11月	36	182	217																																																		
12月	51	150	213																																																		
1月	45	163	213																																																		
2月	67	157	195																																																		
3月		173	218																																																		
<p>この GPS の経験から学ぶことができるポイント</p>	<p>本事業では立ち上げから 2 年半後を育児支援の開始予定としました。事業開始前は職場での「ファミリーサポート」自体の認知度が低かったため、初年度は広報を兼ねたアンケート調査を行い、事業の周知を行いました。翌年は安全安心な支援ができるよう、また、提供会員の人数をある程度確保できるように、もっぱら提供会員の育成を行いました。そして 3 年目に依頼会員を募集し支援を開始しました。このように十分に準備期間をとったことが、その後の円滑な事業推進や、有効な支援に繋がっています。</p> <p>また地域のファミリーサポートセンターと連携したり、町内会に広報したことにより、地域からの暖かなご協力をいただきました。また、本学のように職場で新たに事業を立ち上げなくても、既存の地域のファミリーサポートセンターを職員が利用しやすくなるような連携の方法を検討し、職場が地域づくりの一端を担うなど様々な取り組みが可能と考えます。</p>																																																				
<p>参考資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 厚生労働省 web サイト <a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/ikuji-kaigo01/">http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/ikuji-kaigo01/</a></li> <li>2) 財団法人女性労働協会 web サイト <a href="http://www.jaaww.or.jp/service/family_support/">http://www.jaaww.or.jp/service/family_support/</a></li> <li>3) 育児サポート 3: 一般財団法人女性労働協会 (2013 年 6 月)</li> </ol>																																																				
<p>投稿者</p>	<p>野原理子      e-mail      2014 年 8 月 6 日</p>																																																				